

第122回 有田国際陶磁展

Arita International Ceramics Competition

記者発表資料

第122回
有田国際
The 122nd Arita International Ceramics Competition
陶磁展

[会場] Venue
美術工芸品・オブジェ部門
Applied Fine Arts and Artistic Objects
佐賀県立九州陶磁文化館
The Kyushu Ceramic Museum

産業陶磁器部門
Industrial Ceramic Art
佐賀県陶磁器工業協同組合
Saga Ceramics Industrial Association

[主催] Sponsors
佐賀県／有田町／有田商工会議所
Saga Prefecture / Arita Town / Arita Chamber of Commerce

[問い合わせ先] Inquiries
有田国際陶磁展事務局（有田町商工観光課）／TEL 0955-16-2500
Arita International Ceramics Competition Secretariat (Arita Town Hall)

2026
4/29 wed.
— 5/6 wed.

ポスター原画：佐賀県立有田工業高等学校デザイン科 須東 香帆

ポスターコンクール最優秀賞
佐賀県立有田工業高校デザイン科2年 須東 香帆

日時：令和8年4月7日(火) 16:00～

場所：佐賀県立九州陶磁文化館

審査員名簿

美術工芸品・オブジェ部門

(50音順・敬称略)

氏名	所属	備考	推薦者
ニシカワ マサル 西川 勝	日展会友 日本新工芸家連盟 理事	日展 京都市伏見区	田中 忍
フクシマ ゼンゾウ 福島 善三	日本工芸会 理事 重要無形文化財保持者	日本工芸会 福岡県朝倉郡東峰村	今泉 今右衛門
マルテルサカモト マキコ マルテル坂本 牧子	兵庫陶芸美術館 学芸員	評論家 兵庫県丹波篠山市	今泉 今右衛門

審査員名簿
産業陶磁器部門

(50音順・敬称略)

氏 名	所 属	備 考
イド マサノブ 井戸 真伸	愛知教育大学 教育学部 美術教育講座 教授	東京都生まれ。 2009年よりヘルシンキ芸術デザイン大学客員教授、アラビア・アートデパートメント客員アーティストを務め、両ポストを行き来しながら、「人」「生活」「デザイン」についての関わりと研究を深める。 近年はデザイン、アート、エンジニアリングなど、カテゴリズされた概念に捕らわれない創造的活動を、特にこれらがまじり合った曖昧な箇所注目しながら渡る試みに奮闘している。 国内外にて作品展示、收藏、受賞多数。 2021年Center of Contemporary Artists(Italy)世界Top10に選出。
ノウサク カツジ 能作 克治	株式会社能作 代表取締役会長	福井県出身 2002年に代表取締役社長 2023年に代表取締役会長 能作は1916年に設立され、伝統産業である鋳物により長年、仏具、茶道具などを製作してきたが、私が代表になった2002年よりデザインを取り入れた自社ブランドの商品開を行ってきた。 錫と銅を材料にインテリアから食器まで自社ブランドとOEMを中心に製造している。 現在、海外に2店舗、国内に20店舗の直営店がある。 2016年に藍綬褒章を受賞 高岡商工会議所会頭 (一社)日本工芸産地協会会長
ハラダ ユウマ 原田 祐馬	UMA/design farm 代表	大阪府吹田市出身。デザイナー。 京都精華大学芸術学部デザイン学科建築専攻卒業後、インターメディウム研究所7期生として入学。2005年まで在籍。アーティストの椿昇に師事し、2007年、UMA/design farmを設立。どく社共同代表。グッドデザイン賞審査副委員長。京都市立芸術大学客員教授、秋田公立美術大学客員教授、京都精華大学客員教授、名古屋芸術大学デザイン総合研究所ディレクター、花園近鉄ライナーズコミュニケーションディレクター、DESIGNEAST実行委員会などを務める。 たんぼぼの家の播磨靖夫理事長から「領域を横断してプロジェクトを横串にし、ガラガラぽんするデザイナー」と言われたことがきっかけで、その意識を持ち活動を続けている。 フィールドワークと現場を大切に日本中を移動する。著書に『One Day Esquisse: 考える「視点」が見つかるデザインの教室』。愛犬の名前はわかめ。

ポスターコンクール最優秀賞

佐賀県立有田工業高校 デザイン科 2年 須東 香帆

「部門別・県別出品数等内訳」

下段の（ ）内は前回分

美術工芸品・オブジェ部門

項目	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 国内	外国籍	合計
出品者数	3	15	35	10	1	2	0	1	1	26	7	101
	(4)	(12)	(38)	(8)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(28)	(7)	(100)
出品点数	4	16	38	10	1	2	0	1	1	27	7	107
	(5)	(13)	(39)	(8)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(30)	(7)	(105)
入選点数	1	8	31	7	0	1	0	1	1	18	2	70
	(4)	(11)	(30)	(6)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(14)	(5)	(72)
入賞点数	0	2	3	2	0	0	0	0	1	6	1	15
	(0)	(3)	(9)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(15)

(※入賞点数は、入選点数の内数です。)

産業陶磁器部門

項目	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他 国内	外国籍	合計
出品者数	0	0	50	3	0	0	0	0	0	6	3	62
	(0)	(1)	(46)	(6)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)	(5)	(66)
出品点数	0	0	59	4	0	0	0	0	0	8	3	74
	(0)	(1)	(54)	(7)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(8)	(5)	(78)
入賞点数	0	0	15	2	0	0	0	0	0	0	1	18
	(0)	(0)	(13)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(2)	(18)

「過去10年間の出品点数」

美術工芸品・オブジェ部門

	第 113 回	第 114 回	第 115 回	第 116 回	第 117 回	第 118 回	第 119 回	第 120 回	第 121 回	第 122 回
	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
出品点数	128	128	127	109	102	80	107	109	105	107
うち佐賀県	69	59	56	47	45	35	46	43	39	38

産業陶磁器部門

	第 113 回	第 114 回	第 115 回	第 116 回	第 117 回	第 118 回	第 119 回	第 120 回	第 121 回	第 122 回
	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
出品点数	111	96	106	103	70	48	82	91	78	74
うち佐賀県	81	67	84	80	64	39	68	71	54	59

第122回 有田国際陶磁展 入賞者名簿

『美術工芸品・オブジェ部門』

2026.4.7時点

賞	(フリガナ) 入賞作品名	(フリガナ) 氏名	住 所	年 齢
文部科学大臣賞	ヒョウセイユウギンサイバチ コナユキ 氷青釉銀彩鉢 「粉雪」	トミカワ アキコ 富川 秋子	神奈川県鎌倉市	48
2位・佐賀県知事賞	タンカチョウモンモンノアルトウ 炭化彫紋文のある陶	イマダ タクシ 今田 拓志	広島県山県郡北広島町	55
3位・有田町長賞	ナミ 『波』	ウエキ カオル 植木 薫	佐賀県多久市	64
4位・有田商工会議所会頭賞	ハクノリツドウ 白の律動	アサクラ タカコ 浅倉 貴子	神奈川県足柄上郡大井町	51
佐賀県陶芸協会賞	ネリアゲクミバチ デジタルカモフラージュ 練上組鉢 Digital Camouflage	クサバ エイト 草場 瑛人	佐賀県西松浦郡有田町	44
朝日新聞社賞	コウ 皎	ババ リンタロウ 馬場 麟汰郎	長崎県東彼杵郡波佐見町	26
熊本放送賞	ツヤコトウコ《ユウコウ》 艶黒陶壺《幽光》	スズキ マコト 鈴木 まこと	沖縄県那覇市	30
佐賀新聞社賞	キャット cat - ?	スエナガ アツシ 末永 篤志	佐賀県鹿島市	47
サガテレビ賞	セキサイセンモンカキ 赤彩線文花器	クニサダ カツヒコ 國定 克彦	京都府船井郡京丹波町	58
伝統的工芸品産業振興協会賞	セイハクジンノギボリツボ 青白磁鎬彫壺	カワゾエ サダヒデ 川添 貞秀	長崎県東彼杵郡波佐見町	67
陶業時報社賞	ヴァイトリアス・リジェネレーション Vitreous Regeneration	ソウダ ツカサ 惣田 司	兵庫県尼崎市	47
西日本新聞社賞	テツユウチョウモンフカバチ 鉄釉彫文深鉢	ウキハシ ミホコ 浮橋 美保子	福岡県福岡市西区	72
日本経済新聞社賞	ヒカリノハコ 光の箱	タケムラ トモユキ 竹村 智之	滋賀県大津市	64
読売新聞社賞	サキガケアト 魁跡	イシイ ミオ 石井 美緒	福岡県福岡市東区	38
陶都有田国際交流協会賞	アッカディメント #219 ACCADIMENTO #219	シモーネ ネグリ SIMONE NEGRI	熊本県熊本市中央区	55

文部科学大臣賞受賞者プロフィール(美術工芸品・オブジェ部門)

ふりがな 氏名	とみかわ あきこ 富川 秋子	年齢	48 歳
現住所	神奈川県鎌倉市		
所属	公益社団法人 日本工芸会		
経歴	経歴 2002年 女子美術大学大学院美術研究科修了 2007年 茨城県立窯業指導所(現・陶芸大学校)修了 2014年 上瀧勝治氏に師事 2016年 日本工芸会正会員に認定 受賞 2014年 現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ 岩国美術館賞 2017年 第10回現代茶陶展 TOKI織部奨励賞 2019年 第59回東日本伝統工芸展 MOA美術館賞 2025年 第17回現代茶陶展 TOKI織部奨励賞 2026年 第54回伝統工芸陶芸部会展 MOA美術館賞		

第 122 回 有田国際陶磁展
美術工芸品・オブジェ部門 審査評

審査長 マルテル坂本牧子

明治 29 (1896) 年に本展の前身となる第 1 回陶磁器品評会が開催されてから 130 年という節目の年。このたび、長い歴史を持つ有田国際陶磁展の審査に初めて参加させていただき、大変光栄に思っております。継続は力なりと言いますが、これだけ長く続く公募展というのは他に類を見ません。日本の磁器発祥の地において、作り手たちの切磋琢磨の機会として、早くから高い意識を持って本展を続けてこられたことに、「有田」という窯業地としての矜持を感じます。今回は、応募総数が昨年より 2 点増えて 107 点を数えたことも、大変心強いことだと思います。

一次審査では、まず各審査員が 30 点ずつ作品を選び、協議の上、入選作品 70 点を選びました。二次審査では、一次審査で 3 票と 2 票を得た作品から入賞 15 点を選ぶべく投票を行い、先に上位 5 点を選びました。この時、一次審査で高い評価を得ていたものの、作品の状態を精査した結果、賞候補から外す作品となるものも出てきました。その後、得票数の多いものから 1 点 1 点、協議の上、残り 10 点を決定しました。

最高賞の文部科学大臣賞を受賞した富川秋子氏の《氷青釉銀彩鉢「粉雪」》は、サイズは小さめながら、すっきりとしたシャープなフォルムと、明るい青の釉薬のグラデーションが美しく調和し、最初から目を引きました。表面にふわりと施された銀彩がキラキラと輝き、見る者の心に余韻を残す作品だと思いました。

第二席の佐賀県知事賞を受賞した今田拓志氏の《炭化彫紋文のある陶》も、非常に控えめな造形ながら、完成度の高さで目を引いた作品です。轆轤成形による端正な鉢型に彫りを入れることで、二重構造のような立体感を加え、炭化によるモノトーンのグラデーションにより、その効果を高めています。

第三席の有田町長賞を受賞した植木薫氏の《波》は、磁器ならではの魅力を存分に活かした堂々たる存在感を放つ作品です。鉢型を大胆に横に広げ、どこまでも広がっていく海のような壮大さを感じられます。ほんのりと青みがかかった釉薬もフォルムを美しく引き立てています。

第四席の有田商工会議所会頭賞を受賞した浅倉貴子氏の《白の律動》は、細い繊維状となった磁土が折り重なった斬新な造形です。時代でしょうか。今、物質の変容に注目した作品が多く、改めて素材そのもの、焼成によって生まれる現象などを捉えようとする作品が増えています。本展にも、磁土による造形の可能性を新たに問うような作品が見られたことに、期待が持てました。

デジタル化が加速し、AI (人工知能) が存在感を増し続ける現代において、その対極にあるといえそうな「工芸」に、静かに注目が集まっています。素材の持つ物質的な強さ、そして、人間の「手」を用いることによって体現される身体性。何より確固たる実在感が得られる工芸が、不安定で混沌とした今という時代を象徴する表現メディアとして、逞しい存在感を放っているような気がします。今こそ、人間回復。やきものはその象徴的な役割を果たすのかもしれませんが。

伝統があるからこそ、革新が生まれる。この「伝統がある」ということは、本当に大きな強みです。本展が、日本における陶芸表現を豊かにアップグレードしていく、その一つの場として、これからも継続していかれることを願っています。

賞	フリガナ 入賞作品名	フリガナ 氏名	住 所	年 齢
経済産業大臣賞	キリコ ワインカップ kiriko ワインカップ	カブシキガイシャ コウランシヤ 株式会社 香蘭社	佐賀県西松浦郡有田町	
2位・佐賀県知事賞	ロッカクコウダイコバチ 六角高台小鉢	ヤマヘイガマ やま平窯	佐賀県西松浦郡有田町	
3位・有田町長賞	ルリユウテンガジュウカラクサモンバチ 瑠璃釉天鷲絨唐草文鉢	サカモト タツヤ 坂本 達也	佐賀県西松浦郡有田町	54
4位・有田商工会 議所会頭賞	ハナタバモンティーセット 花束文ティーセット	ヤダ クミコ 矢田 久美子	佐賀県西松浦郡有田町	63
技能賞	ナナスンヒネリサラ スミツバキ 七寸ひねり皿 墨椿	オオバヤシ ヨシユキ 大林 吉幸	佐賀県伊万里市	56
有田焼卸団地協 同組合賞	ヒスイナガシ・スイテキ 翡翠流し・水滴	ハラダ ヨシヤス 原田 吉泰	佐賀県西松浦郡有田町	44
佐賀県陶磁器工 業協同組合賞	セキテイ クミザラ 石庭(組皿)	ソエジマ ケンタロウ 副島 健太郎	佐賀県西松浦郡有田町	48
佐賀県陶磁器商 業協同組合賞	カレイドシリーズ カレイドシリーズ	タセイガマ タナカ リョウタ (株)田清窯 田中 亮太	佐賀県西松浦郡有田町	59
朝日新聞社賞	セイハクジバジョウハイ(カゼワタルソラ) 青白磁馬上杯(風渡る空)	ヒロサワ リンペイ 廣澤 隣平	佐賀県西松浦郡有田町	49
熊本放送賞	ブルーミング Blooming	カカオポタリー cacaopottery	佐賀県西松浦郡有田町	45
佐賀新聞社賞	テンモクアオユウテキ サラ 天目青釉滴 皿	イノウエ ユウキ 井上 祐希	佐賀県西松浦郡有田町	37
サガテレビ賞	アリタイル コンポジション フレーム ARTILE Composition 02: Frame(フレーム)	キンショウドウ カネコ シンジ 金照堂 金子 真次	佐賀県西松浦郡有田町	65
伝統的工芸品産 業振興協会賞	カゴボタンセイカイナミモンカクザラ 籠牡丹青海波文一角皿	ツカモト マスオ 塚本 増夫	佐賀県武雄市	81
陶業時報社賞	ミニツケルモロサ 身につける もろさ	ミウラ アカネ 三浦 あかね	佐賀県西松浦郡有田町	21
西日本新聞社賞	リニア Linear	フルカワ テルユキ 古川 照幸	長崎県佐世保市	60
日本経済新聞社 賞	マイサクラモッコウサラアンドミニグラス 舞さくら木瓜皿&ミニグラス	フジカワ セイキ 藤川 清記	長崎県東彼杵郡波佐見町	63
読売新聞社賞	ハクジバクシュハイ 白磁麦酒盃	イワナガ カズヒサ 岩永 和久	佐賀県西松浦郡有田町	44
陶都有田国際交 流協会賞	ヨハク 余白(YEOBAEK)	シンチャンセラミック 信昌セラミック	大韓民国	

経済産業大臣賞受賞者プロフィール(産業陶磁器部門)

ふりがな 氏名	かぶしきがいしゃこうらんしゃ 株式会社 香蘭社	創立 明治12年(1879年)7月10日
現住所	佐賀県西松浦郡有田町幸平一丁目3番8号	
経歴	<p>佐賀県有田の地に日本磁器が誕生した1616年。初代深川栄左衛門が有田で陶磁器製造を始めた1689年。八代深川栄左衛門が合本組織香蘭社を設立した1875年。以来、現在までの長きにわたり窯業に携わり、過去にとらわれず未来に向かい、素材や製造技術、新しい表現に果敢に挑戦してまいりました。「製品の品質を精緻にすること、形状および画彩は美にすること」という創業者たちの不滅の精神を継承しつつ、これからも日本の技と美の研鑽を積み、万国共通の最高質な製品で社会に貢献してまいります。</p> <p>1876年(明治9年)フィラデルフィア万国博覧会において褒状を受賞。 1877年(明治10年)大久保利通内務卿より「名誉の章」が贈られる。 1878年(明治11年)パリ万国博覧会において金賞を受賞。 1888年(明治21年)バルセロナ万国博覧会において金賞を受賞。 1896年(明治29年)宮内省大膳寮より、御用品製造を拝命。 1900年(明治33年)パリ万国博覧会において金賞を受賞。 1909年(明治42年)アラスカ=ユーコン=太平洋博覧会においてグランドプライズを受賞。 1910年(明治43年)日英博覧会においてグランドプライズを受賞。 1915年(大正4年)パナマ太平洋万国博覧会においてグランドプライズを受賞。 1930年(昭和5年)リエージュ産業・科学・応用芸術国際博覧会においてグランプリ受賞。 2019年(令和元年)ニューヨークでの展示会NY NOW「Tabletop + Gourmet Housewares」部門で、最優秀新商品グランプリを受賞。 2024年(令和6年) 第120回有田国際陶磁展 美術工芸品・オブジェ部門で、経済産業大臣賞を受賞。</p> <p style="text-align: center;">7月 香蘭社設立145周年を迎える。</p>	

第122回 有田国際陶磁展

産業陶磁器部門 審査評

審査長 井戸 真伸

まずは本年も当コンペティションが無事に開催され、この日を迎えられたことを大変嬉しく思います。そして、微力ながらやきもの産業に関わり、応援させていただけることにあらためて感謝申し上げます。

本年の産業陶磁器部門の応募点数は昨年と比較して微減となりましたが、この数年で見ると概ね横這いに推移していると思われます。願わくはもちろん応募がさらに増え、盛り上がってほしいところではありますが、やきものに関わらず地場産業全体が下降気味であることを鑑みれば、相対的には増えていると捉えることもできるかもしれません。いずれにしても継続は力ですから、今後もやきもの産業に関わる産地のみなさまの力を結集して、続けていかれることを願っております。

さて、本年の審査は能作克治氏、原田祐馬氏、井戸の三名で行われました。それぞれ専門が異なりながらも、クリエイティブ分野で活動する三者が意見を交わし、大変充実した審査になったと思います。お二方に、この場を借りて感謝申し上げます。

審査は例年通り先ずは投票から始めましたが、そのあとはすべて互いの意見をぶつけ合いながら、話し合いによって賞を決定してきました。その結果、第一位となる経済産業大臣賞には香蘭社さんによる「kiriko ワインカップ」に決定いたしました。本作はその名の通り切り子のような意匠を全体に施した、とても繊細で完成度の高いプロダクトです。これまでも陶磁器によるワインカップは度々市場に登場してきましたが、本作は従来商品と比べても新鮮さを持ち、薄く軽く造られたカップ部や、フリルスカートのようなステム部の造形は大変優雅で魅力的です。また、おそらくCADによるものと思われる設計や、一見無釉かと思わせるような端正な釉薬の使い方、難しい焼成も完璧で、経済産業大臣賞にふさわしい見事な作品だと思いました。

続く佐賀県知事賞には、やま平薫さんによる「六角高台小鉢」を選出させていただきました。本作もCADによる設計ですが、一番感心したことは直線の造形です。やきものとはかく直線が苦手で曲がりがちですが、その変形予測を見事にこなし、いい意味でやきものらしくない新鮮な造形を表現してくれています。また、ビスク地に施された金銀彩は主張しすぎることなく、美しい魅力をつくりあげていました。唯一惜しく思ったのは本体と蓋の嵌合の甘さです。意図的なものだったかはわかりかねますが、せっかくCAD設計をしているのですから、もう少し攻めた嵌合を狙った方が良かったのではないかと思います。それをここなしていれば、第一位を競っていたかもしれません。

上記二つの賞に続く受賞作の中にも甲乙つけがたいものがたくさんあり、総じて充実した作品群となっております。前回も申し上げたことですが、コンペティションは「挑戦と提案」であり、商品としての魅力とともに、世の中に何をみせてくれるか？という期待ですから、今後とも大いに楽しみにしております。

さて、以下はやや余談ではありますが、先日、日本の企業と大学が世界初の木製人工衛星を開発し、NASA/JAXAの審査に合格して宇宙へ放たれたというニュースを見ました。衛星が大気圏再突入時に燃えて無くなることで、地球環境や通信などに対して悪影響を与えさせないことを主な目的としているそうです。驚くのはその組み立てで、日本の伝統的な蟻継ぎの一つ「留形隠し蟻組継ぎ」を用い、組まれた箇所は外からは一切見えないというこだわりようです。しかも接着剤は宇宙環境化で精密部品に悪影響を与える可能性があることから一切使われておらず、組み木のみで造られているとのこと。この寸分違わず精緻に組む技術は機械成形ではなく、職人の手技のみが可能であって、AI全盛の時代であっても、人間の手や知恵でしかできないことがまだまだたくさんあることを教えてください。それは陶磁器をはじめとした地場産業全体にも大いなる勇気を与えてくれるものではないでしょうか。私たちは今まさにAI時代への過渡期にいますが、その中にあっても長い歴史を持った陶磁器に何ができるか、人の知恵と技で何ができるかを試されていると思いますし、それを示せると思います。そういったことを確信できる素晴らしい作品をこれからも期待しております。

●表彰式

日時 2026年4月28日(火)13時30分～

場所 佐賀県立九州陶磁文化館(佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1)

表彰式招待予定者

美術工芸品・オブジェ部門(1位、2位、3位、4位、佐賀県陶芸協会賞の受賞者)

産業陶磁器部門 (1位、2位、3位、4位、技能賞の受賞者)

ポスターコンクール最優秀賞の受賞者

※その他の受賞者の方は、賞状、副賞を郵送いたします。

●作品の展示

会期 2026年4月29日(水・祝)～5月6日(水・振)

場所 美術工芸品・オブジェ部門

佐賀県立九州陶磁文化館(佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1)

内容:美術工芸品・オブジェ部門の入選・入賞作品、招待作品の展示

産業陶磁器部門の1位～4位、技能賞の受賞作品と同じ作品の展示

産業陶磁器部門

佐賀県陶磁器工業協同組合(佐賀県西松浦郡有田町外尾町丙1217)

内容:産業陶磁器部門の全作品、招待作品の展示

第122回 有田国際陶磁展 『美術工芸品・オブジェ部門』上位入賞作品

文部科学大臣賞



二位 佐賀県知事賞



三位 有田町長賞



四位 有田商工会議所会頭賞



佐賀県陶芸協会賞

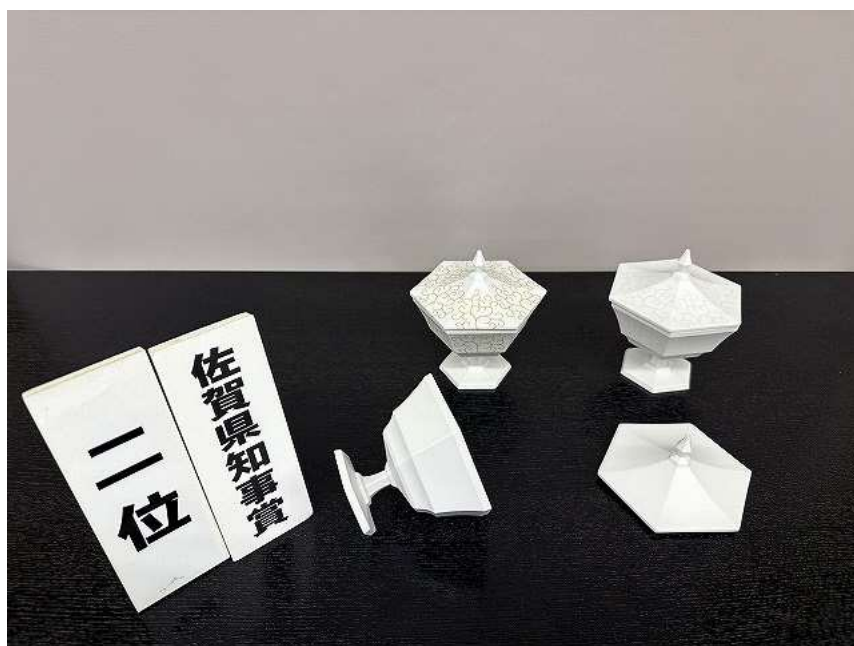


第122回 有田国際陶磁展 『産業陶磁器部門』上位入賞作品

経済産業大臣賞



二位 佐賀県知事賞



三位 有田町長賞



四位 有田商工会議所会頭賞



技能賞



●有田国際陶磁展ホームページ

<https://www.town.arita.lg.jp/toujiten/>

